

令和6年度第2回

匝瑳市地域農業経営基盤強化促進計画等策定検討会

会議録

開催日時	
令和7年1月15日（水） 13:30～15:30	
開催場所	
匝瑳市役所議会棟 2階 第3委員会室	
出席者	
委員	木下 真一、金城 ハル子、角田 由江、萩原 三江、伊藤 秀雄、塚本 優、土屋 玲子、石毛 甲子男、木内 三男
事務局	飯島農林水産課長、渡辺主査補、石田（会計年度任用職員）
欠席者	
委員	鈴木 幸一

会議内容
<p>【次第】</p> <ol style="list-style-type: none">開 会会長あいさつ議事<ol style="list-style-type: none">匝瑳市地域計画の進捗及び今後のスケジュールについて匝瑳市地域計画（案）についてその他閉会 <ol style="list-style-type: none">開 会 開会宣言。委員出席状況を報告し、会議の成立を宣言する。会長あいさつ議事 《会長》 議事1及び2は、関連事項であることから、一括して事務局説明を求め、その後に協議したいと思うがよろしいか。 《委員》 異議なし

会議内容

《事務局》

(1) 匝瑳市地域計画の進捗及び今後のスケジュールについて

(2) 匝瑳市地域計画（案）について

資料に基づき説明。

《会長》

事務局からの説明について、質問・意見等あるか。

《委員A》

地域計画（案）中の「地域における農業の将来の在り方」について、高収益作物の導入を検討していくとの記載があるが、具現性がないと思う。

検討するという表現ではなく、例えば、ブロッコリーの栽培など、実際に何をやるのか、という具体的な取り組み内容を記載すべきではないか。

《事務局》

地域計画（案）の各項目については、アンケートの集計結果や各地区で実施した協議の場での意見を反映している。

現段階においては、具体的な方向性を示せる地区はない状況であった。引き続き、地域との話し合いを続けていく中で、具体的な内容に踏み込んだ協議をしていきたいと考えている。

《事務局》

話し合いの中では、収益の見込める作物を作っていこうという方向性はあるものの、具体的な作物を決めるところまでは至っていない状況である。地域計画（案）においても、このようにまとめさせていただいた。

《委員A》

「多様な経営体の確保・育成の取組」に対して取るべき措置として、関係機関と連携することとなっているが、高収益作物の導入や有機・減化学肥料への取組みについても、同様に連携が必要である。現状で、連携はとれているのか。

《委員B》

吉田地区において、基盤整備事業の関係であるが、高収益作物への取組みを関係機関とともに進めている。

《伊藤委員》

例えば、吉田地区の戦略作物として地域計画（案）に記載してはどうか。

《事務局》

吉田地区の一部の取組みであり、地区全体として策定する地域計画には、記載していない。一方で、基盤整備事業と地域計画は密接に係るものである。地区全体との整合性のとれるよう、計画への反映を検討する。

《委員A》

特定の作物を産地化していく中で、地域計画の策定がどのようにメリットとなるか伺いたい。

会議内容

《事務局》

具体的な補助事業の名称についてはこの場では言い切れないが、地域計画を策定することにより活用できる事業がある。

《事務局》

現状、産地形成に向けた、国庫事業の産地パワーアップ事業、県単事業の農産産地支援事業等を進めている。

また、委員の指摘にもあったが、地域計画の記載内容に課題がある認識を持っている。今後は、検討から一歩進められるような体制づくりについて、長期的ではあるが目標としていきたい。

《委員A》

市だけではなく、販売組織である農協と共に進めていく方がよい。

《委員C》

ブロッコリーでいうと、作期等において千葉県に優位性があると思う。

《委員A》

いずれにしても、具現性のある戦略を市と農協で連携し、進めていくべきである。

《事務局》

販路も含めて考えると、農協と連携していかなければならない。

《委員D》

単独ではできないので、協力体制をとっていく必要がある。

《委員C》

レモンやオリーブも適性があると思う。

《委員A》

市内には山間地と平地があり、それぞれに特性がある。色々な作物に挑戦していくべきである。

《事務局》

具体的な作物名を出していただいたところであるが、今回の計画案の時点では、地区から意見が出てこなかった部分である。これから地域計画において焦点を当てていく部分であると考えている。

《委員A》

戦略を練って推奨していかなければ進捗もしないと思う。実現できるようお願いしたい。

もう1点、基盤整備事業への取組みの項目について、市内全域で事業実施を行うような計画を立てていただきたい。小さい区画が多くある現状のほ場状況では、担い手が新たな農地を引き受けることができず、集積や集約が進まない。

これは、都市計画とも整合性をとりながら考えていかなければならない問題である。担い手を確保していくためには、基盤整備の実施が必要である。

《事務局》

基盤整備事業に関しては、協議の場においても、地域の方から様々な意見を

会 議 内 容

いただいた。ほ場条件の向上に対する積極的な意見があった一方で、費用負担面で、地権者からの了解が得にくいとの意見を多かった。

《事務局》

地域計画の実行に当たっては、地域の協力も重要な要素である。引き続き、具体的な施策を進める話合いをしていく必要がある。

《会長》

他に質問・意見がなければ、本日の協議を終了する。

4 その他

なし

5 閉会

閉会宣言